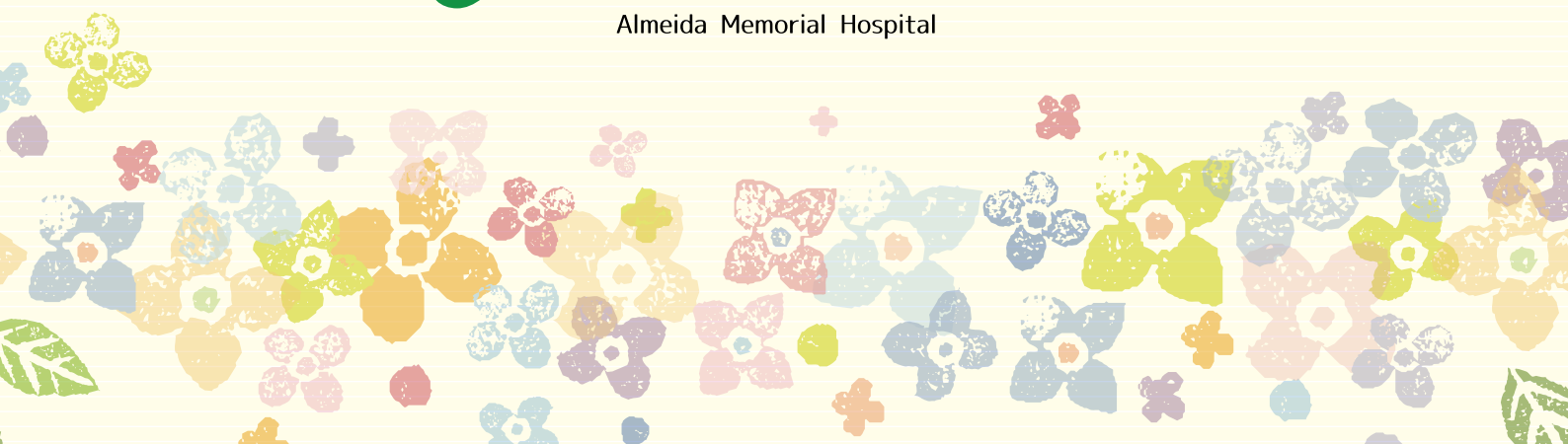




アルメイダ病院 緩和ケア病棟

5周年記念

 大分市医師会立
アルメイダ病院
Almeida Memorial Hospital



5周年に寄せて

緩和ケア病棟5周年を迎えて



院長
杉村 忠彦

近年、緩和医療の重要性が注目されるようになり、当院は平成22年3月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けたことで、大分市医師会員施設は基より県南・豊肥地区をはじめ県下での位置づけを明確にすることが出来ました。地域の皆さんに“がんの専門病院”として、患者さんの状態に応じた適切ながん医療が提供でき、今まで以上に、病診連携など「地域がん診療連携拠点病院」としての連携も深め易くなったものと思われます。

更に、緩和ケア病棟が大分県内に不足していることや患者さんが出来るだけ身近な地域で療養生活が送れるよう、平成24年度に緩和ケア病棟を新設し、4月より病床数21床（全個室）で診療を開始いたしました。以来、緩和ケア病棟では、さまざまな専門職の協力やボランティアの方々の援助により、痛みなど身体的苦痛を伴う悪性腫瘍の患者さんおよびご家族のQOL（生活の質）の向上をサポートしています。

今後とも、患者さん・ご家族の皆様が安心してゆったりと穏やかな時間を過ごしていただけるよう、スタッフが協働して『人間愛の精神』に基づいた医療を提供してまいります。

これからの5年・10年後も、緩和ケア病棟がさらに充実した療養活動を続けていけるよう職員一同、努力してまいりたいと思います。

すべての人に緩和ケアを届けるために



緩和ケア内科 部長
大野 栄治
日本緩和医療学会専門医

当院緩和ケア病棟は、平成24年4月に、県内で3番目となる専門的緩和ケア施設として開設され、お陰様で5周年を迎えました。大分県内では初めての院内独立型（病院の敷地内だが独立した建物にある）の病棟であるため、急性期病院に隣接しながらも静かな環境にある一方、各診療科の応援を受けて総合病院でないと困難な内容の緩和医療の提供も実現しています。平成26年4月に、開設当初から病棟の基盤づくりに尽力していただいた首藤前緩和ケア部長が勇退されましたが、その後を引き継ぎ、皆様のご協力をいただきながら、少しずつ内容の充実を図って参りました。現在21床のうち14床のみで運営していますが、待機患者も増加しており、できる限り早期の全床運営を目指しています。

ただ、緩和ケアとは、常に患者やその家族のそばにあって、必要なときすぐに手を差し伸べてくれる「希望の医療」でなければいけません。どれだけ病床を広げようと、私達の力だけでは、緩和ケアを一部の人にしか届けることができないのです。緩和ケアが、すべての人に切れ目なく提供されるためには、病院の中でなく、地域を中心にして行われる社会にしていく必要があります。そのような社会の実現のためには、地域で行われる基本的緩和ケアをサポートする専門的緩和ケアを提供することが、今後の我々に与えられた課題であり、今まで以上に医師会病院として地域と連携することで、いつでも必要としているすべての人に緩和ケアを届けていきたいと考えています。

これからも、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

病棟開設から5年間の取り組みと感謝

師長 後藤 啓子

緩和ケア病棟の開設時から5年間、病棟師長としての取り組みと、これまでお世話になった方々への感謝を申し上げます。

急性期の病院に終末期ケアを専門とする緩和ケア病棟の開設は、急性期で看護師のキャリアをもつスタッフにとって、これまでの自らの看護の在りかたを振り返る機会となりました。そこで、患者さんやご家族の苦悩と向き合い、ひとり一人の意向に添った看護の提供ができるようスタッフと共に努め、多職種の専門性を活かしたチームアプローチが病棟内で行えるよう多職種との連携も深めてきました。

それらの取り組みで、現在は緩和ケア病棟をご利用になられた患者さんやご家族から多くの感謝のお言葉をいただけるチーム力の高い病棟に成長できたのではないかと考えています。これも、スタッフひとり一人の努力と緩和ケア病棟の発展を応援して下さった方々のご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

今後も、緩和ケア病棟へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

音楽のプレゼント【ミュージックタイム】

音楽療法士 井上 直子

緩和ケア病棟開設5周年の節目の年、患者様と過ごした様々な時間を思い出し、深い感慨を覚えています。

緩和ケア病棟での音楽療養は、平成24年8月から【ミュージックタイム】として、月2回、デイルームで始まりました。患者様やご家族の不安や恐れを和らげ、残された時間をその人らしく過ごせるよう、音楽で援助することを目的としています。現在は、2名の音楽療法士（井上直子・小田佳子）で、毎週、行われています。要望があれば、病室に伺って音楽を提供する時もあります。

この5年間に演奏した曲は、季節の歌とリクエスト曲等を合わせて、500曲以上になりました。その一曲一曲が、患者様とのかけがえのない思い出に繋がっています。

聴力は最期まで残る能力、と言われています。音楽が患者様のこれまでの人生を肯定し、心に平安をもたらすものと感じて、これからも音楽で寄り添っていきたい、と思っています。

最後になりましたが、緩和ケア病棟のますますのご繁栄を祈念いたします。

緩和ケア病棟 祝5周年とその思い出

患者家族 原 勉

緩和ケア病棟が開設され、早や5周年を迎えられ心よりお喜び申し上げます。

妻が、平成26年6月に緩和ケア病棟へ転棟し、日夜を通じ手厚いケアをしてくれるナース、幾度となくベッドサイドまで来てくれる主治医、身の周りの世話を優しくしてくれるヘルパーなどの対応にはとても素晴らしいものがあり、その姿勢に感動しました。

ベッド上の妻が曰く「この病棟に替えていただいて本当に良かった」と嬉しそうでした。

それでも、妻は回診に来てくれる先生に対し病気の苦しさに耐えられず胸の内を「先生、苦痛のないようにゆっくり眠りたい。苦しめないように眠らせてほしい」と、お話ししたようです。しかし私からみれば、少しでも妻と普通どおりの会話が出来、素顔の様子が見守れば何よりも幸せだと思っておりました。

運命の日はこの緩和ケア病棟へ来て40日が経ったときでした。本人の意志を取り入れてあげる事になりベッド上の本人、近親者を集め主治医の先生に、その旨をお伝え致しました。

「これまで長年生涯を共に過ごし、苦楽を共にして来た妻と今生の別れになるのか」と思うと胸の苦しさ、痛みはたま

らなく、自分を見失っていた様な気がいたします。

近親者家族を枕元に集め、妻は「皆さんお世話になりました、有難うございました」と、はっきりと皆さんに最後の言葉を伝えました。この一言が一同の涙を誘いとても辛い悲しい一日でありました。

私は、あの時、もう少し別れの言葉を交わし最後の言葉として「もう少し何か」を言ってあげれば良かったと、今でも思っています。

緩和ケア病棟にお世話になって2ヶ月間に亘る闘病生活でした。大野先生、後藤師長さん、ナースの皆様には命の大切さを教えて頂きました。病棟スタッフの皆様にとっても優しく接していただき、心の行き届いたケアに感謝の気持ちが今も心に残っております。

“光陰矢の如し” 緩和ケア病棟が開設されて5年が経ち地域医療に大きく貢献され、県下の基幹病院としてなくてはならない存在にあります。

「年齢と健康は人生の宝」だと申されます。与えられた使命感をいつまでも心の中に輝き続けられますよう願っております。今後益々のご発展をご祈念申し上げます。

平成29年3月吉日

緩和ケア病棟の1年



新春の初釜会は琴の演奏の中
お抹茶をいただきました



春



月に一度の「なごみ膳」を囲んで記念写真です



夏



願いがこめられた短冊が沢山



緩和ケア病棟で結婚をお祝いしました



ご家族と一緒に夏祭りをしました





ご家族と一緒にテラスでお散歩です



ご家族皆さんで年越しをしました



クリスマスはスタッフ皆でハンドベルの演奏会です



音楽療法で心が和みます

ボランティア活動



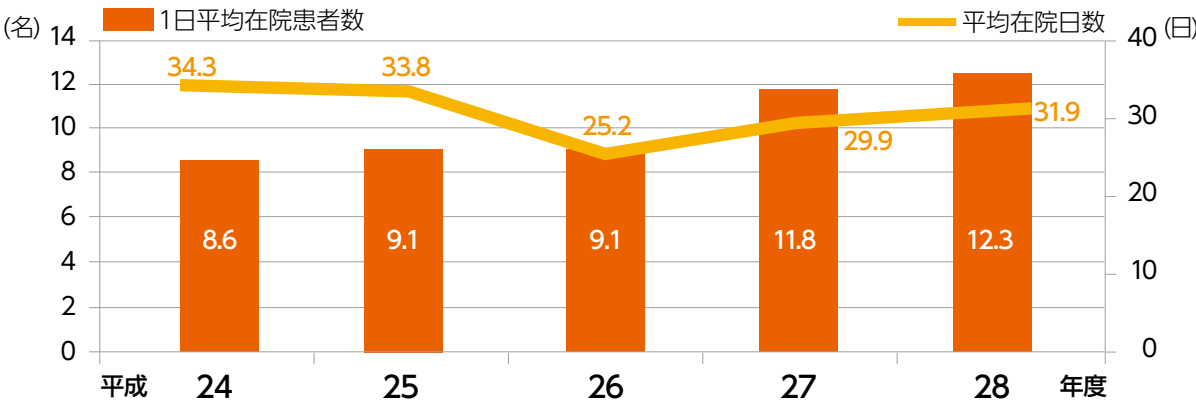
話し相手、ボランティア喫茶にてお茶のサービス、庭園や病棟内の植物の手入れ、楽器演奏など特技を生かした活動、病院スタッフと一緒に病棟での行事の準備などを通じて、患者さんやご家族に寄り添い穏やかな日々を送っていただけるよう活動をしています。患者さんを支えるチームの一員として欠かせない大切な存在です。

5 年間のあゆみ

歴	史	平成 24 年 4 月	緩和ケア病棟開設 (21 床)
		平成 24 年 4 月	緩和ケア内科部長として首藤真理子医師就任
		平成 24 年 4 月	日本緩和医療学会認定研修施設認定 (指導医：首藤真理子) (26 年 4 月まで)
		平成 24 年 5 月	緩和ケア病棟入院基本料算定開始
		平成 24 年 8 月	音楽療法「ミュージックタイム」開始
		平成 24 年 10 月	ボランティア活動開始
		平成 26 年 5 月	緩和ケア内科部長として大野栄治医師就任
		平成 29 年 4 月	日本緩和医療学会認定研修施設再認定 (指導医：大野栄治)
		平成 29 年 4 月	ホスピス緩和ケア協会「緩和ケア病棟の質向上の取り組み認証」取得

診療実績

年間入院患者動向

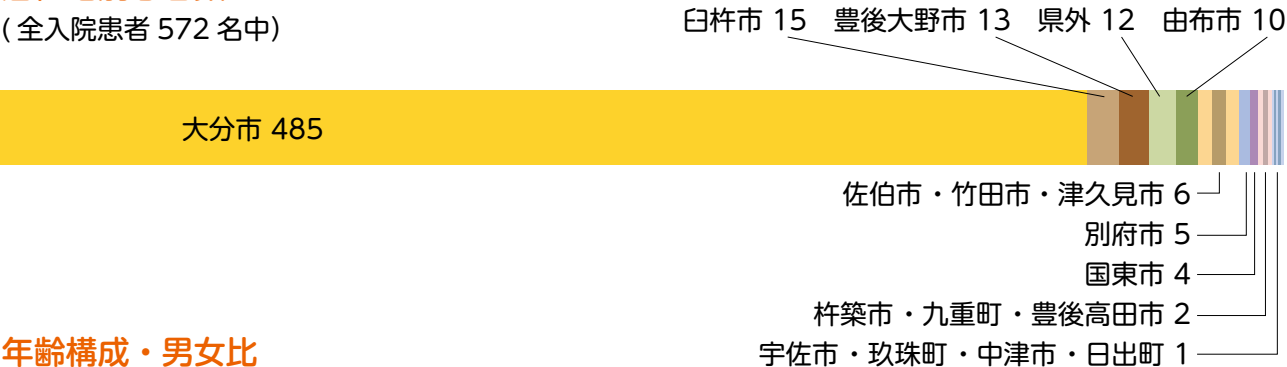


	平成 24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入院患者数	95	99	134	145	139
退院患者数	88	98	129	145	142
死亡退院数	72	74	92	109	108

※面談から入院までの待機日数 (平成 28 年度) … 6 日

居住地別患者数 (名)

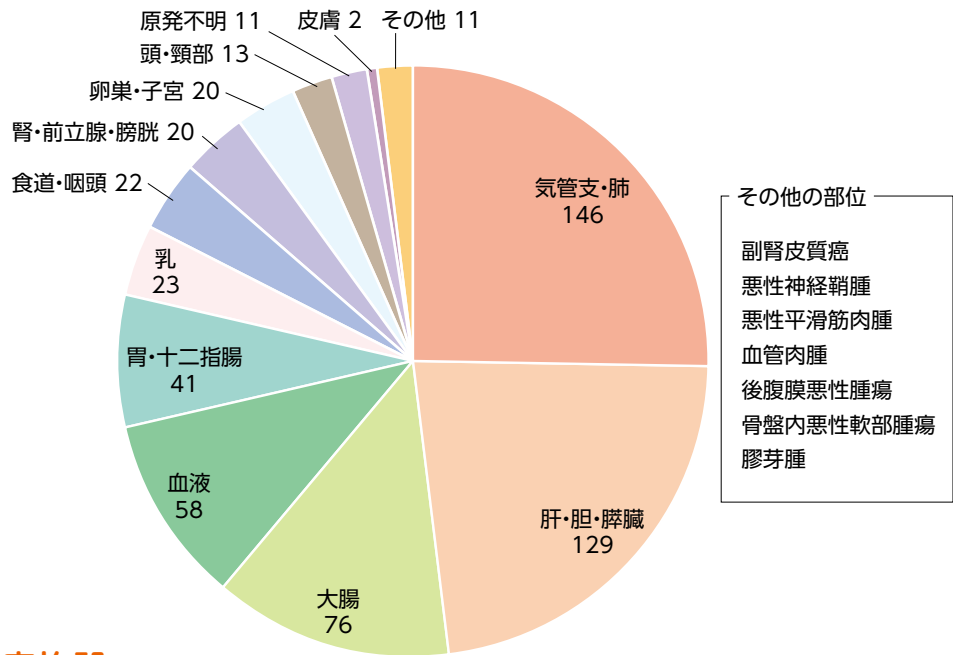
(全入院患者 572 名中)



年齢構成・男女比

平均年齢 (年齢幅)	男女割合
71 歳 (29 歳～ 98 歳)	男性 56% 女性 44%

原発部位別患者数(名)
(全入院患者 572 名中)



ご紹介いただいた医療施設

施設名	患者数
大分県立病院	130
大分大学医学部附属病院	91
大分赤十字病院	43
やまおか在宅クリニック	33
うえお乳腺外科	9
大分医療センター	8
大分循環器病院	7
大分三愛メディカルセンター	5
九州医療センター	4
大分記念病院	3
大分協和病院	3
有田胃腸病院	3

◇1～2名ご紹介 (50音順)

秋岡医院	玄同内科医院
明野中央病院	城東病院
あけのメディカルクリニック	上人病院
飯塚病院	膳所病院
岩波内科クリニック	多田胃腸科医院
臼杵市医師会立コスモス病院	たねだ内科
えとう内科病院	塚川第一病院
王子クリニック	津久見市医師会立津久見中央病院
大分丘の上病院	永富脳神経外科病院
大分岡病院	にのみや内科
大分共立病院	野口病院
大分県厚生連鶴見病院	畑内科医院
大分下郡病院	東九州泌尿器科
大分整形外科病院	ひがし内科医院
大分東部病院	日野医院
大分中村病院	平岡外科医院
おおいたメディカルクリニック	ふじしま内科
大久保内科外科(内視鏡)クリニック	ふじ養生クリニック福岡
大阪府豊中市立豊中病院	別府医療センター
おの内科クリニック	帆秋病院
かく医院	松山医院大分腎臓内科
川崎内科	みえ病院
九州大学病院	宮崎市郡医師会病院
熊本大学医学部附属病院	めのクリニック

入院までの流れ

入院前に緩和ケア病棟医師・看護師との面談が必要です。

- ① 電話連絡：緩和ケア相談窓口（緩和ケアコーディネーター）にお電話（097-569-3121）にてご相談下さい。見学や相談のみの対応も可能です。
- ② 外来予約：入院をご希望される場合は緩和ケア外来（月～金の午前・午後）の予約をおこないます。
- ③ 診察：緩和ケア外来にて面談します。
診療情報提供書と、採血・画像等の検査所見がありましたらお持ち下さい。
患者さんご自身が受診できない場合は、ご家族の方だけがお見えいただいても構いません。
診療情報提供書は事前にFAX(097-569-3316)して下さい。
- ④ 入院連絡：緩和ケア外来にて本人・家族の意思が確認でき、入棟基準を満たしていると判定された場合は、入院予約といたします。
実際の入院日は後日改めて連絡いたします。



交通案内
【大分バス】トキハ本店前バス停より20分、宮崎バス停下車 徒歩3分
【タクシー】JR大分駅より20分
【電車】JR豊肥本線 敷戸駅下車 徒歩15分